

つるがしま里山サポートクラブの発足の思い出

つるがしま里山サポートクラブは、市役所の呼びかけにより準備開始から数えて、丸10年を数えることとなりました。

この活動が10年もの間、継続し得たのは、会員の皆様の努力と市民の皆様や企業、市役所の皆様のご支援によるものと感謝いたします。

思い起こしてみると、市内にこんな豊かな里山が存在していることに気が付かされたのは、市役所の皆様からの里山の活動へのお誘いでした。

自然、森などは、遙か山地に行っただけでしか体験出来ないと思っていた自然が、歩いて行ける場所に存在していることは、目から鱗が落ちる思いでした。

このようなすばらしい自然を市民の森として提供していただける一市民としては、行政に大変感謝の思いでした。この活動の中で、自然とのふれあい、恵み、多くの植物、動物、昆虫の生息などこんなに身近で体験できるなど、初めての経験でした。

このすばらしい自然、「里山」が少しずつ減少していることを知り、この自然の体験を身近で出来る「里山」を保全する事が出来ないかと始まったのが、つるがしま里山サポートクラブでした。

この鶴ヶ島市の市民が参加して里山を保全維持する活動をモデルとして活動を支援する「里の山守利制度」が埼玉県で条例化され、鶴ヶ島市の市民の森が指定第一号地、二号地となりました。このような社会的活動へと展開していく中で、次世代へ継承していくため、この活動を持続する体制として、平成17年(2005年)に特定非営利活動法人として組織化しました。鶴ヶ島市の市民の森は、平成23年(2011年)現在、8箇所、14.3haで日本一の面積です。

http://www.mlit.go.jp/crd/park/joho/database/toshiryokuchi/shimin_ryokuchi/index.html

これまでの主な活動

つるがしま里山サポートクラブの活動を振り返って見ますと、準備期間は高德神社の市民の森での活動でした。ここでは自然のすばらしさに対する感動でした。

活動の始まりは、第六号市民の森でした。森へ入る道もない状況でしたが、会員の活動により、草刈り、間伐を実施し、市民の森の中に飯森川が流れているのがわかりました

「飯森川清流復活大作戦」

飯森川は、ゴミの捨て場でありとあらゆる家庭用品が捨てられていました。自転車、オートバイ、冷蔵庫、机、炊飯器、ありとあらゆる家庭用品でした。トラック一台では処理できないほどのゴミの山でした。この川の状況から、本来この川は、湧き水を源流としており、汚れるわけがない川です。しかし、すごい臭気とヘドロの川でした。

この川を清流に変えることを目標とした活動でした。この活動は、春、秋の2回開催し、今年で、18回を迎えることとなりました。



六号高倉の森の活動 2003

私たちの里山の活動や市民の森があることを知っている市民が少ないことから、市民の森のPRをしたいと考えました。自然とのふれあいは、子供時代が大切であるとの思いから、学童クラブの子供達が森で遊べるイベントを開催しました。

